

金沢大学 神経内科

年 報

第 9 号

2008 年 1 月～2008 年 12 月



金沢大学大学院 医学系研究科 脳医科学専攻
脳病態医学講座 脳老化・神経病態学(神経内科学)

<http://web.kanazawa-u.ac.jp/~med19/>

目 次

年報第9号の刊行にあたって	1
[1] 出来事・人事異動	3
[2] 診 療	13
[3] 症例検討会・各種カンファレンス	18
[4] 教育活動	24
[5] 業 績	29
(1) 論文・著書	29
(2) 学会・研究会等	44
(3) その他の対外活動（委員会・取材など）	63
(4) 学会、研究会等の主催	66
[6] 研究助成	68
[7] 学位・専門医等	69
[8] 褒 賞	71
[9] 関連病院の施設紹介	72
[10] 大学在籍者名簿	79
編集後記	81

年報第9号の刊行にあたって

2008年（平成20年）の教室の記録を年報第9号としてまとめました。教室の診療、教育、研究活動は、病院内、学内の方々、国内外の共同研究者の方々、関連施設の方々、文部科学省・知的クラスター創成事業・「なかじまプロジェクト」（七尾市中島町における脳健診および認知症予防プロジェクト）関係の地域や行政の方々、厚生労働省・アミロイドーシス調査研究班やクロイツフェルト・ヤコブ病サーベイランス委員会等の研究班・委員会活動に関わる多くの方々等の支援を受けており、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

2008年、米国発の金融危機を端緒とする不況が世界中に波及し、わが国でも経済の失速や失職者急増が大きなニュースとなりました。政治面では、米大統領選でオバマ氏が勝利し米国初の黒人大統領誕生決定という大きな出来事があり、一方、わが国では首相がまた変わり、福田首相が突然退陣、麻生首相が後継しました。また、中国四川大地震、中国製冷凍ギョーザによる中毒事件、秋葉原での無差別7人殺害事件など、国内外で事件が相次ぎました。2008年を象徴する一字として「変」という漢字が選ばれていました。「大変な事件が多かった」、「社会の変化が明らかになった」、「変な社会になってしまった」など、社会が変質し時代の変節点にあることを多くの人が実感した年であったのかもしれませんが。一方で、ノーベル物理学賞を南部、小林、益川氏が、化学賞を下村氏が受賞するという明るいニュースもありました。研究上なじみのある GFP 蛋白質は下村先生が初めて単離・精製したものであることを知りました。

医療面では、前年に引き続き「医師不足」・「医療崩壊」がキーワードとして瀬回にメディアに登場しました。若手医師が大都市へ集中し（地域間格差）、救急や重症患者が多い科を専門とすることを避けようとする傾向（診療科間格差）、地域中核病院で過重な責務を負う中堅医師が退職していってしまう現象（立ち去り現象）などが相変わらず話題になりました。これらの現象は新臨床研修制度開始と同時期から明瞭になりました。医学部定員増の方針が出されましたが、実効性がみえる改善策が乏しいままに経過しました。大学医学部／大学病院は、「高度医療」、「先端医学研究」、「医療人育成」の3つの使命を果たすべく努力をしていますが、特に地方大学にめだつ若手医師不足、とりわけ臨床と共に研究にも志を有する若手医師の減少傾向がみられ、次代を担う人材育成という点で先行きが危惧されます。

2008年の当教室のトピックスの1つは、当地域における神経疾患患者さんの病理解剖（剖検）システムが実際に動き始めたことです。不幸にして患者さんが亡くなられた場合、御家族の御許可のもとに剖検させていただき、私達の診断や治療が適切であったか否かを検証し、さらに将来の患者さんのために研究に取り組むことが求められます。

大学病院での剖検の機会は非常に少数に限られます。その性格上、大学病院で精査、治療開始後、関連病院等に転院されて診療が継続される場合が多いからです。しかし、これまで、関連病院等での長期経過後に剖検までフォローさせていただくことができたケースは極めて稀で、地域全体でみると剖検がほとんど出来ていなかったことが大きな問題で、それを可能にする体制を構築することが私達の重要な課題となっていました。

そこで、当科の関連病院で、当地域の神経難病患者さんを長期に渡り診療している主要施設である国立病院機構・医王病院において剖検体制を整備すべく、ご協力をお願いしました。医王病院は大学から車で15分ほどの金沢市北部に位置し、駒井清暢・副院長（前・当科助教授／現・当科臨床教授）をチーフに、神経難病を中心に神経疾患の診療（神経内科約150ベッド＋外来・在宅診療）を行っており、大学で診断や初期治療を行った多数の患者さんを長期に渡り診療していただいています。2007年に医王病院に臨床研究部（院内標榜）を設置していただき、当科から石田千穂講師（現・当科臨床准教授／病理解剖資格認定医／日本神経病理学会評議員）が部長として赴任しました。医王病院には病理医はおりませんので、石田部長を中心に神経内科が剖検を行い、当科の研究室で脳標本作成や特殊検索を行って神経系の病理を診断し、また、一般臓器の病理診断は金沢医療センター病理・川島先生に御協力をいただいています。2008年からは、医王病院でCPC（臨床病理検討会）を定期的に行い、CPCには当教室からは全医局員が、関連施設からも神経内科医が参加して活発な討論を行っています。

2008年の剖検実績をみると、金沢大学病院神経内科は剖検3例（死亡数自体が3名と少なく剖検率100%）、医王病院神経内科は剖検16例（死亡数31名）で、合計すると年間20名程度の患者さんの神経病理を検索させていただいていることになります。剖検の充実は、当地域における神経疾患診療水準の向上、さらに難病の病因解明・治療法開発研究推進の基盤となるものです。また、若手医師が神経内科専門医をめざす後期研修において、神経病理の基本をきちんと研鑽することは、将来どのようなキャリアをめざす場合でも必要なプロセスと考えております。私は、金沢大学赴任前、東京の浴風会病院で脳病理をみさせていただいておりましたが、また、金沢でも神経・筋生検ばかりでなく脳標本を定期的にみる機会を持てるようになり、大変ありがたく思っております。

この年報第9号を皆様方に御高覧いただき、一層の御指導を賜わりますことができましたら誠に幸いに存じます。

2009年（平成21年）2月

山 田 正 仁

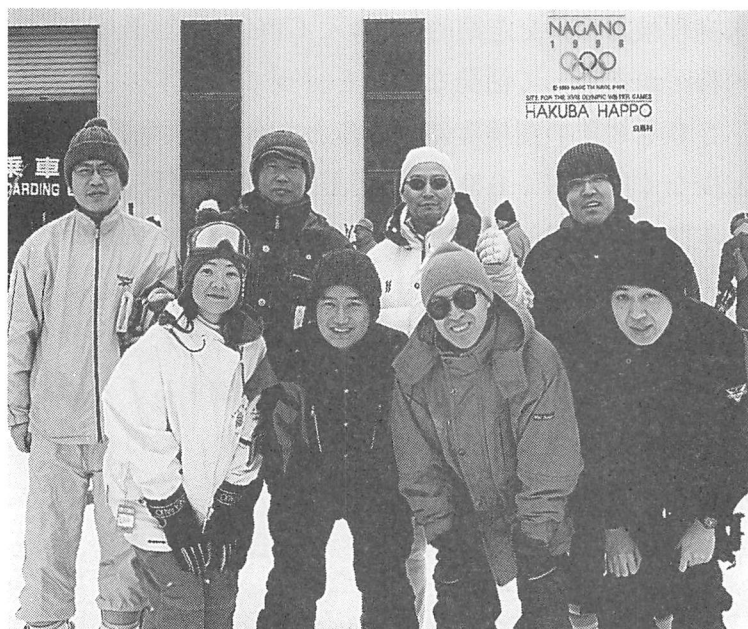
[1] 出来事・人事異動

(1) 2008年医局の出来事

2008年1月15日 医局新年会（猿煙、金沢）



2008年2月16-17日 医局旅行（白馬八方尾根スキー場、長野）



2008年3月15日 市民公開講座 in ななお「認知症の早期発見 ～これって「ぼけ」なの～」を開催（場所：七尾サンライフプラザ）
（66 ページ参照）

文部科学省・知的クラスター創成事業「石川ハイテク・センシング クラスター」・早期認知症診断支援システム及び認知症予防プロトコルの開発研究「なかじまプロジェクト（脳健診及び認知症予防介入プログラム）」

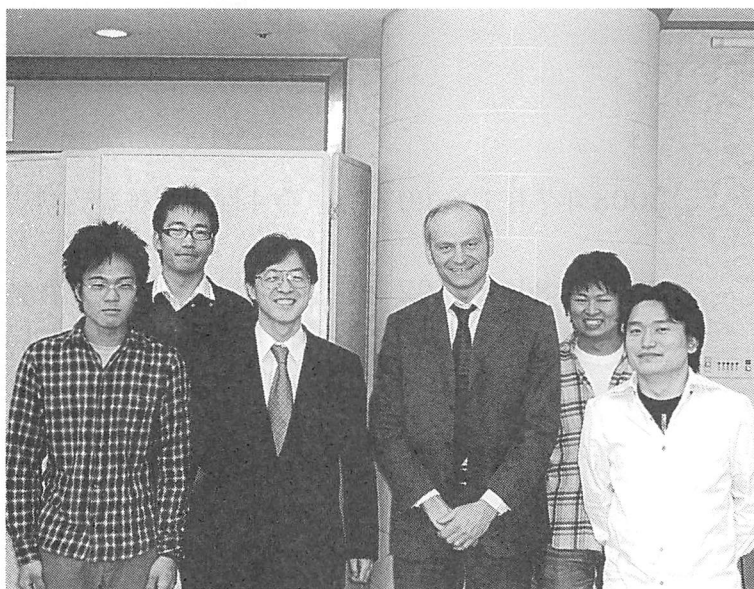
2008年3月25日 医局送別会（タブリエ、金沢）



2008年4月22日 新人歓迎会（紀夫ダイニングいしろ、金沢）

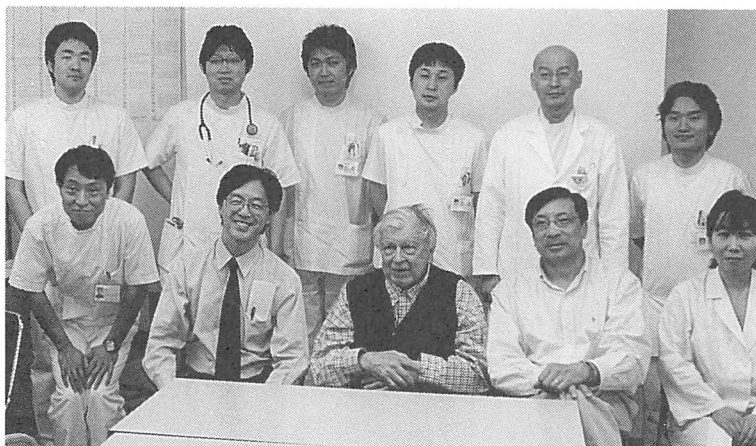


2008年4月15日 Angelo Antonini 教授（ミラノ大学）、金沢大学神経内科訪問。
当科症例検討会にゲストとして参加後、ご講演いただきました。



2008年4月30日

Daniel C. Gajdusek 先生（ノーベル医学生理学賞受賞者）、金沢大学神経内科訪問。当科及び医王病院神経内科病棟回診、当科カンファレンスにゲストとして参加していただきました。（神経内科医局にて）



2008年5月15日

金沢大学神経内科同門会（驛鞆、横浜）



2008年7月19-20日

第4回金沢神経内科アカデミーを開催（27 ページ参照）

2008年8月21-22日

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業
アミロイドーシスに関する調査研究班
「アミロイドーシス 夏のワークショップ2008」を
開催（金沢市・金沢大学医学部記念館、KKR ホテル金
沢）（67 ページ参照）

2008年12月9日

医局忘年会（ぶどうの木、金沢）

2008年12月20日

金沢大学神経内科同門会・学術集会／総会（8ページ
参照）



< 2008 年医局集合写真 >

(2) 大学人事異動

2008年4月

<転入>

柳 瀬 大 亮：石川県立中央病院から助教へ

高 橋 良 一：金沢大学附属病院前期研修医から医員（後期研修医）へ

森 永 章 義：福井大学より医員へ

浜 口 歩：国立病院機構医王病院より医員へ

<転出・異動>

品 川 真里子：砺波総合病院を退職

高 橋 和 也：金沢大学附属病院助教より国立病院機構医王病院へ

篠 原 もえ子：国立病院機構医王病院より石川県立病院へ

本 崎 裕 子：金沢大学より国立病院機構医王病院へ

町 谷 知 彦：金沢大学より国立病院機構医王病院へ

2008年4月

<転出>

木村 美智子：事務員を退職

(3)2008年 金沢大学神経内科同門会学術集会／総会

日 時 12月20日 (土)

場 所 金沢都ホテル

学術集会

I 症例検討会

座長 柳 瀬 大 亮

- 1) 「眼瞼下垂、視神経炎を合併した外眼筋炎の一例」

石川県立中央病院

篠 原 もえ子

- 2) 「SCA2 高齢者の一例」

医王病院

石 田 千 穂

- 3) 「出産4週間後にステロイド反応性 reversible leukoencephalopathy を生じた一例」

金沢大学附属病院

室 石 豊 輝



II 特別講演

「富山県の医療と富山市民病院の役割」

座長 新 井 裕 一
富山市民病院 林 茂



III 大学院博士課程修了、学位取得報告会

座長 岩 佐 和 夫



1) 「我が国における家族性アミロイドーシスの疫学調査」

医王病院 本 崎 裕 子



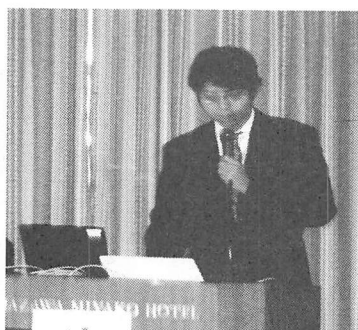
2) 「内因性分泌型終末糖化産物受容体はアルツハイマー病患者脳の高馬ニューロンで発現が低下している」

金沢大学附属病院 野 崎 一 朗



3) 「エストロゲンのアルツハイマー病 β アミロイド線維に対する抗アミロイド効果」

金沢大学附属病院 森 永 章 義



4) 「重症筋無力症治療におけるタクロリムスの効果」

福井県立病院 古 川 裕



5) 「アルツハイマー病における血液脳関門透過性と頭蓋内炎症に関して」

石川県立中央病院 松 本 泰 子



IV 表彰

高 守 正 治 同門会会長

1) 金沢大学神経内科同門会高守賞

石川県立中央病院 篠 原 も え 子

- ・ Noguchi-Shinohara M, *et al.* Clinical features and diagnosis of dura mater graft associated Creutzfeldt Jakob disease. *Neurology*. 2007;69:360-7.

2) 金沢大学神経内科同門会奨励賞

金沢大学附属病院 浜 口 毅

- ・ Hamaguchi T, *et al.* Guillain-Barré syndrome with antibodies to GD1a/GD1b complex. *J Neurol Neurosurg Psychiatry*. 78:548-9, 2007

金沢大学附属病院 浜 口 歩

- ・ Shibata-Hamaguchi A, *et al.* Long-term effect of intravenous immunoglobulin on anti-MuSK antibody-positive myasthenia gravis. *Acta Neurol Scand*. 116:406-8, 2007
- ・ Shibata-Hamaguchi A, *et al.* B-cell neurolymphomatosis confined to the peripheral nervous system. *J Neurol Sci*. 260:249-52, 2007





金沢大学神経内科同門会集合写真（2008年12月20日）

〔2〕 診 療

（１）外来実績

２００８年度の外来は、２００７年度から始まった初診外来の完全予約制もかなり浸透し、大きな混乱もなく運営出来ました。紹介状なしの初診患者数が大幅に減少（前年度比３８．２％）したことが、如実に完全予約制の成果を物語っています。これも面倒な完全予約制にご協力下さった先生方や外来受付事務の方々のご尽力の賜物と、心より感謝申し上げます。初診患者数が前年に引き続き減少しているのは、紹介状なしの患者数が大幅に減少したことの影響と思います。将来、外来担当医が増えれば自然に解決すると考えております。

大学病院では既に新外来棟が完成しており、２００９年５月からは新外来棟での診療が始まる予定です。この１年は、その準備で様々な会議に出た様に思いますが、なかなか運営方針が決まらず、新外来棟がどの様に運営されるか分からないことが沢山あります。病院全体が完全予約制を導入するというつもりで、全科準備を進めてきたのですが、その完全予約制導入も怪しい状態となり、導入されなかった場合のシュミレーションを考えるなど、新外来棟会議は混乱を極めております。外来受付体制も大幅に変わる予定ですが、どの様になるかは今一つはっきりしない状態です。２００９年度の初めは、同門の先生方に例年にもましてご迷惑をお掛けすることになるかもしれませんが、御諒承のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご多忙の中大学病院の外来診療をお手伝い頂いた小竹先生、高橋先生、廣畑先生には、重ねてここに深謝いたします。

（外来医長 浜 口 毅）

表 外来患者数（2008 年）

月	医 事 課 集 計				神 経 内 科 集 計			
	患者数合計 (人)	再診	初診	入 院 中 他科受診	初 診			
		患者数 (人)	患者数 (人)	患者数 (人)	初診患者数 (人)	院内紹介 (人)	院外紹介 (人)	紹介状なし (人)
1	652	579	25	48	58	38	16	4
2	669	586	37	46	83	50	26	7
3	723	653	32	38	89	53	29	7
4	676	597	34	45	85	51	29	5
5	683	606	37	40	77	48	19	10
6	758	671	29	58	93	61	29	3
7	746	645	40	61	91	52	31	8
8	612	557	26	29	71	44	20	7
9	703	623	36	44	83	53	24	6
10	690	622	24	44	89	63	21	5
11	556	492	23	41	60	37	18	5
12	690	616	25	49	76	50	25	1
合 計 (前年比%)	8158 (107.0)	7247 (100.5)	368 (88.19)	543 前年度集計なし	955 (93.4)	600 (104.9)	287 (105.5)	68 (38.2)

* 医事課統計は入院中の他科依頼患者を除く。

2008 年度外来担当医

曜 日	月	火	水	木	金
初 診	岩佐 柳瀬	池田篤、池田芳 能登 隔週交代	吉田 小竹	浜口 岩佐 広畑	高橋
再 診	山田* 浜口 岩佐		柳瀬 吉川*	山田* 岩佐 吉田	
ものわすれ外来 (初診) (午後)				山田 吉田	

* 紹介患者初診含む

（２）病 棟

神経内科病棟は、東２階です。小生は関連病院から久しぶりに大学病院診療に復帰しましたが、病棟看護師さん達は、師長さん筆頭に、非常に親切・熱心・かつ医師にも協力的であり、良い意味で当初の予想を裏切られ、担当医師にとっては非常に仕事がしやすい病棟であったと思われます。病棟スタッフの方々には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

入院患者に関しては、例年平均を上回る症例数を経験することができ、また新規遺伝子変異を伴う神経疾患の発見もあり、大学病院としての役割もそれなりに果たせたのではないかと考えています。その他、例年予約患者様には、入院まで２か月前後お待たせすることが多かったのですが、本年度は、おおむね１か月前後で入院していただくことができました。これには２つの要因があると考えます。まず第１に、病棟担当医の過半数が神経内科専門医であり、検査計画からアセスメント、治療までがスムーズであったことが挙げられます。ただし、これは病棟運営や患者様にとっては福音でしたが、裏を返せば病棟担当医の高齢化・若手医師の人手不足ともとることができ、これからの当科発展のためにも、研修医を含めた若手神経内科医師と専門医が協力して、アクティブな病棟運営ができるよう、鋭意努力が必要と思います。第２点目として、こちらの要因がより大きいかと思いますが、当科のベッドに空きがない場合に、石川県立中央病院や金沢医療センター等関連病院の先生方に、脳血管障害を中心とした救急疾患の入院をお願いする事例が増えたことが挙げられます。関連病院との連携がスムーズであった、といえば聞こえが良いですが、実際にはお忙しい中で無理を申し上げて入院や転院を引き受けてくださった症例も数多く存在したと思われ、この場をお借りして関連病院の諸先生方にお礼を申し上げるとともに、今後は、診断困難例や難治性症例などの診断・加療に関して、大学病院としての役割を果たしつつ関連病院諸先生方との連携もより密にしていけたらと希望しています。今後ともご指導の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

（病棟医長 柳 瀬）

<疾患内訳>

(例数)

血管障害	22
脳梗塞	16
一過性脳虚血発作	3
静脈洞血栓症	2
脳出血	1
感染症・炎症性疾患	20
細菌性髄膜（脳）炎	6
肥厚性硬膜炎	5
ウイルス性髄膜（脳）炎	3
クロイツフェルト・ヤコブ病	3
HTLV－1 関連脊髄症	1
感染後脳症	1
破傷風	1
変性疾患	39
運動ニューロン病	15
脊髄小脳変性症	6
パーキンソン病	5
遺伝性痙性対麻痺	4
進行性核上性麻痺	3
アルツハイマー型認知症	3
ハンチントン病	1
意味性認知症	1
レビー小体型認知症	1
筋・神経筋接合部疾患	15
重症筋無力症	7
ランバート・イートン筋無力症候群	3
筋ジストロフィー	2
封入体筋炎	2
多発筋炎	1
末梢神経障害	23
シェーグレン症候群に伴う多発単神経障害	4

家族性アミロイドポリニューロパチー	4
遺伝性運動感覚ニューロパチー	4
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	1
血管炎性ニューロパチー	1
多発脳神経障害	3
その他の末梢神経障害	6
脱髄性疾患	19
多発性硬化症	14
視神経脊髄炎（抗 AQP 4 抗体陽性）	5
てんかん	4
内科・全身性疾患に伴う神経筋疾患	9
悪性リンパ腫	1
サルコイドーシス	1
熱中症	3
成人発症 I 型シトルリン血症	1
肺腺癌（傍腫瘍性末梢神経障害）	1
ウィルソン病	1
RS 3 PE 症候群	1
その他	27
精神疾患	7
代謝性脳症	3
ミオクロームス	3
急性肺炎	3
頚椎症性神経根症	2
頚椎症＋腰椎症	1
脳表ヘモジデリン沈着症	1
拡張型心筋症	1
脊髄腫瘍	1
廃用症候群	1
良性発作性頭性目眩症	1
前庭神経炎	1
歯性上顎洞炎	1
急性胆嚢炎	1

計 178 例

[3] 症例検討会・各種カンファレンス

(1) 2008年症例検討会

日付	年齢	性別	題 名	疾患名(疑い例を含む)	主治医
1 / 8	85	F	頸下がりを呈し PSP が疑われた 1 例	進行性核上性麻痺	室石、浜口毅
1 /29	46	M	肢帯型筋ジストロフィーとの鑑別が問題となる筋炎疑いの 1 例	筋炎	牧野、池田芳、吉田
2 / 5	60	M	緩徐進行性で原因が検索しえていない sensory neuropathy の 1 例	多発単神経障害	室石、浜口毅
2 /12	50	M	Pure sensory neuropathy の経過中に認知機能障害を気づかれた 1 例	意味性認知症	高橋良、池田篤、岩佐
2 /26	64	F	非定型抗酸菌症治療中に発症した重症筋無力症の 1 例	重症筋無力症	斎木、野崎、高橋和
3 / 4	77	F	緩徐進行性の臨床経過を示し、MRI にて造影効果を伴う頸随病変の 1 例	サルコイドーシス	能登、高橋和
3 /11	36	F	延髄炎の 1 例～病態生理と治療について	延髄炎	池田芳、吉田
3 /18	46	F	手根管症候群、肘部管症候群治療後も末梢神経領域に一致した感覚障害が増悪した 1 例	多発単神経障害	室石、浜口毅
4 / 1	38	M	幼少時より緩徐に進行する多発神経障害に成人発症の亜急性視力障害を来した 1 例	遺伝性運動感覚ニューロパチー VI 型	高橋良、池田篤、岩佐
4 / 8	79	M	頸下がりの 1 例－頸下がり症例の鑑別診断	進行性核上性麻痺	室石、柳瀬
4 /15	70	F	Late-onset Huntington disease (Review of patients with Huntington disease in Hokuriku)	ハンチントン病	山田、野崎、吉田
5 /13	49	F	てんかん、精神発達遅滞、視神経萎縮を伴う白質脳症の 1 例	異染色性白質ジストロフィー	浜口歩、岩佐
5 /27	49	M	起立歩行時のミオクローヌスを来した頸椎症性脊髄症の 1 例	脊髄性ミオクローヌス	高橋良、浜口歩、岩佐
6 / 3	53	M	発熱・意識障害が先行し経過中に辺縁系を含む広範な脳病変を認めた 1 例	脳症	森永、浜口毅
6 /10	63	M	当初遺伝性痙攣性対麻痺との異同が問題となった ALS の 1 例	筋萎縮性側索硬化症	野崎、吉田
6 /17	75	F	靴下型感覚障害で発症した痙攣が目立たない HAM の 1 例－HAM 治療方針の検討	HTLV－I 関連脊髄症	船本、室石、柳瀬
6 /24	23	M	脳静脈洞血栓症の 1 例－高脂血症との関連について	脳静脈洞血栓症	浜口歩、岩佐
7 / 1	61	M	痙攣性対麻痺の 1 例～最近の治療を含めて	遺伝性痙攣性対麻痺	森永、浜口毅

7 / 8	36	F	高グリシン尿症を伴う精神遅滞／ジストニアを認めグリシン脳症が疑われた1例	グリシン脳症	高橋良、岩佐
7 /15	72	M	末梢神経障害を伴った痙性対麻痺の1例	感覚性ニューロパチーを伴う筋萎縮性側索硬化症	野崎、吉田
9 /16	64	M	自然軽快がみられた subacute transverse myelitis の1例	多発性硬化症	浜口歩、岩佐
9 /30	36	F	シェーグレン症候群による後根神経節障害と診断されIVIgによる加療が繰り返して施行された1例	シェーグレン症候群による後根神経節障害	高橋良、岩佐
10/ 7	69	F	精神症状のため、パーキンソン症状のコントロールに難渋したパーキンソン病の1例	パーキンソン病	小倉、室石、柳瀬
10/14	60	M	抗 ganglionic Ach R 抗体を認めた末梢神経障害の1例	肺腺癌に伴う傍腫瘍性神経症候群	森永、浜口毅
10/21	29	F	妊娠中に再発を認めた抗アクアポリン4抗体陽性脊髄炎の1例	抗アクアポリン4抗体陽性脊髄炎	野崎、吉田
10/28	36	M	成人期発症のシトルリン血症I型－肝移植の是非について	シトルリン血症I型	浜口歩、岩佐
11/ 4	68	M	後頭葉の脳血流低下と MIBG 心筋シンチで集積低下を認めた MND の1例	認知機能障害を伴う筋萎縮性側索硬化症	高橋良、岩佐
11/11	23	F	出産4週後にステロイド反応性 reversible leukoencephalopathy を生じた1例	Mild encephalitis/encephalopathy with a reversible splenial lesion(MERS)	室石、柳瀬
11/18	34	M	一過性の左上下肢筋力低下・感覚障害で発症 TIA と診断された髄膜脳炎の1例	無菌性髄膜脳炎	高橋良、岩佐
12/ 2	27	M	低 IgG 血症を伴った重症筋無力症の1例	重症筋無力症	赤木、浜口歩、岩佐
12/16	66	F	TIA 様症状を生じたサルコイドーシスの1例	一過性脳虚血発作、サルコイドーシス	佐々木、森永、浜口毅

(2) CPC / 医王病院 CPC

日付	症例	臨床診断	臨床担当	病理診断	病理担当
11/25	59 M	ALS with dementia	駒井 (医王)	ALS	石田 (医王)
11/25	69 M	ALS with dementia	篠原 (県中)	ALS with dementia	石田 (医王)
12/ 9	71 M	ALS with dementia	野崎、吉田	ALS with dementia	田尻 (分子細胞病理学)

(3) 生 検

2008 年疾患内訳（臨床診断（疑い病名含む））

筋	炎症性ミオパチー（多発筋炎・皮膚筋炎・ウイルス筋炎含む）	15
	ミオパチー（原因不明）	5
	筋ジストロフィー	2
	多発ニューロパチー	5
	結節性動脈周囲炎	1
	シャルコー・マリー・トゥース病Ⅰ型	1
	合計	29例
神 経	多発ニューロパチー	6
	シャルコー・マリー・トゥース病Ⅰ型	1
	大脳白質変性症	1
	合計	8例
皮 膚	大脳白質変性症	1
		計 1例

生検所属内訳

所 属	検体数
金沢大学附属病院 神経内科	10
金沢大学附属病院 他科	5
厚生連高岡病院 神経内科	5
石川県立中央病院 神経内科	6
国立金沢医療センター 神経内科	4
能登総合病院 神経内科	1
計	31

(4) 2008 年生検カンファレンス

年月日	診 断	所 属	担 当 医
1月29日	肢帯型筋ジストロフィーの疑い 皮膚筋炎	当科 石川県中	牧野、池田芳、吉田 松本
2月 7日 2月12日 2月25日	ミオパチー 皮膚筋炎 多発筋炎	能登総合病院 当科 金沢医療センター	坂井 吉田 新田
3月 4日 3月11日 3月18日	ミオパチー 皮膚筋炎 多発性ニューロパチー	金沢医療センター 厚生連高岡 当科	坂尻 安川 高橋良、池田篤、岩佐
4月 1日 4月 8日	肢帯型筋ジストロフィーの疑い ミオパチー	当院整形外科 当科	松本 高橋良、浜口歩、岩佐
5月13日	ミオパチー 多発筋炎の疑い	石川県中 厚生連高岡	松本 安川
7月 1日 7月 8日 7月22日 7月29日	多発筋炎の疑い ミオパチー ミオパチー SLE、皮膚筋炎	当院リウマチ内科2 厚生連高岡 石川県中 金沢医療センター	金、加藤 安川 松本 林
9月16日	多発筋炎の疑い	石川県中	篠原
10月14日 10月21日 10月28日	多発性ニューロパチー 多発筋炎の疑い 結節性動脈周囲炎 多発筋炎の疑い 多発筋炎 皮膚筋炎の疑い	当科 石川県中 当院リウマチ内科2 当科 当院リウマチ内科2 石川県中	森永、浜口毅 松本 鈴木 浜口毅 浜口毅 松本
11月11日 11月18日	多発筋炎 多発性ニューロパチー	厚生連高岡 当科	安川 高橋良、浜口歩、岩佐

(5) 臨床神経セミナー

月1回主に第3月曜日17時30分から神経内科、脳神経外科、神経精神科の3科合同で、症例検討会を行っています。2008年に神経内科から提示した症例を表に示します。

年月日	症例	タイトル	主治医
1月21日	76歳男性	外典神経麻痺にて発症した静脈洞血栓症の一例	能登、高橋和
2月18日	50歳男性	Pure sensory neuropathy の経過中に高次機能障害を呈した症例	高橋良、池田篤、岩佐
3月17日	55歳女性	転倒傾向を呈した転換性障害と考えられた一例	池田芳、吉田
4月21日	70歳女性	高齢発症の Huntington 病の一例	野崎、吉田
5月19日	49歳女性	幼少時発症、緩徐進行性の白質脳症	浜口歩、岩佐
6月16日	49歳男性	起立歩行時のミオクロヌスを来した頸椎症性脊髓症の1例	高橋良、浜口歩、岩佐
7月14日	35歳女性	高グリシン尿症を伴う精神遅滞・ジストニアを認めグリシン脳症が疑われた症例	高橋良、岩佐
9月23日	23歳男性	静脈洞血栓症の1例　－高脂血症との関連について－	浜口歩、岩佐
10月20日	69歳女性	精神症状のため、パーキンソン症状のコントロールに難渋した Parkinson 病の1例	室石、柳瀬
11月17日	23歳女性	出産4週後にステロイド反応性 reversible leukoencephalopathy を生じた1例	室石、柳瀬
12月15日	34歳男性	一過性の左上下肢の筋力低下・感覚障害で発症し TIA と診断された髄膜脳炎の一例	高橋良、岩佐

(6) もの忘れ外来検討会

もの忘れ外来受診患者を中心に検査所見、診断、治療経過観察方針について外来主治医、各検査担当者が集まり検討を行っている。また、なかじまプロジェクト（脳健診や認知症予防介入プログラム）など認知症に関するプロジェクトの報告と方針の検討も行っている。

日付(2007年)	検討症例数
1月	15例
2月	14例
3月	7例
4月	10例
5月	10例
6月	11例
7月	11例
9月	11例
10月	8例
11月	6例
12月	14例

(7) 大学院生研究発表会

日 付	演 者	title
2008/ 1/29	小 瀬 健 治	アルツハイマー病と前頭側頭型認知症における脳脊髄液中のサイトカインの検討
2008/ 2/ 5	浜 口 歩	北陸地域における脊髄小脳変性症の調査
2008/ 2/19	野 崎 一 朗	Alzheimer 病の海馬における esRAGE 発現は低下している
2008/ 2/19	梅 下 翔	重傷筋無力症における興奮収縮連関関連分子に対する自己抗体の研究
2008/ 3/ 4	本 崎 裕 子	重症筋無力症合併、非合併胸腺腫におけるサイトカインの検討
2008/ 3/11	町 谷 知 彦	MEG による AD 診断
2008/ 3/11	吉 川 弘 毅	培養細胞を用いた神経筋接合部形成モデルの作成に関する研究
2008/ 3/11	高 瀬 文 超	自己免疫性神経疾患における新規シナプス前標的の同定に関する研究
2008/ 5/13	島 啓 介	MRI による Alzheimer 病の分類と脳代謝
2008/ 6/10	吉 川 弘 毅	培養細胞を用いた神経筋接合部形成モデルの作成に関する研究
2008/ 6/24	高 瀬 文 超	自己免疫性神経疾患における新規シナプス前標的の同定に関する研究
2008/ 7/15	池 田 芳 久	MEG による認知症患者の測定
2008/ 7/22	池 田 篤 平	アミロイド凝集に対するグリコサミノグリカンの作用
2008/ 7/22	能 登 大 介	骨髄細胞からの microglia 分化誘導法と多発性硬化症における monocyte の役割に対する検討
2008/10/14	琢 磨 寛 孝	抗 DHPR 抗体の病的意義
2008/10/21	中 村 紗 季	胸腺腫合併重症筋無力症における新規自己抗体の探索

(8) ニューロサイエンスセミナー

- 第15回ニューロサイエンスセミナー：平成20年10月23日
垣塚 彰：京都大学大学院生命科学研究科・高次生体統御学分野教授
「神経変性疾患における VCP 蛋白質の役割」

[4] 教育活動

(1) 神経系疾患系統講義

- 2008 年度 対象：医学部医学科 4 年生

日 付		タイトル	講義担当者
4月11日	総 論	Neurology 入門 (1)	山田正仁
4月25日	〃	Neurology 入門 (2)	山田正仁
4月25日	〃	検査 (神経生理、髄液)	岩佐和夫
5月 2日	〃	検査 (病理)	石田千穂
5月 9日	各 論	変性疾患 (錐体外路系疾患・認知症疾患)	山田正仁
5月16日	〃	神経系感染症、脱髄	柳瀬大亮
5月23日	〃	変性疾患 (運動ニューロン疾患・脊髄小脳変性症)	吉田光宏
5月30日	〃	脳血管障害の診断と治療 (1)	浜口 毅
7月 4日	〃	脳血管障害の診断と治療 (2)	浜口 毅
9月 5日	〃	神経筋接合部, 筋疾患	吉川弘明
9月12日	〃	末梢神経, 自律神経	岩佐和夫
9月19日	〃	発作性, 機能的疾患	吉田光宏
9月26日	〃	神経系の代謝性・中毒性疾患、全身疾患に伴う神経障害	岩佐和夫
10月23日	特別講義	神経変性疾患に共通する発症機序の解明を目指して	垣塚 彰*
11月 6日	〃	重症筋無力症と筋無力症候群－分子レベルから見たシナプスの構造・機能と多様な抗体を中心として	高守正治**

* : 京都大学教授・本学非常勤講師

** : 本学名誉教授・本学非常勤講師

(2) 診断学実習

(医学部 4 年生対象)

1 グループあたり計 20 回の診断学実習が行われ、神経内科はうち 4 回の神経診断学を担当しました。

- 2008 年春・秋学期

総授業数 20 回

担当：岩佐和夫、吉田光宏、柳瀬大亮、浜口 毅

(3) 臨床講義

- 医学部医学科4年生（2007年11月～2008年3月の9回）

日 付	症例	タ イ ト ル	疾 患 名	担 当
1月11日	82F	左手が思い通りに動かない	大脳皮質基底核変性症	山田正仁
1月18日	43F	ふらつくのは何故？気がつきにくい病	脊髄小脳失調症6型	山田正仁
1月25日	77F	熱っぽく、朦朧としています	細菌性髄膜炎	山田正仁
2月 1日	76M	あれ？電柱が二本に見える	脳静脈洞血栓症	岩佐和夫
2月 8日	80M	転びても笑ふてばかり翁かな	脳梗塞	吉田光宏
2月15日	31F	ある日突然発症し、いつの間にやら治った うれしいな～と思ったら えっまた再発！？ お～大変だ！！	重症筋無力症	山田正仁
2月29日	64M	お茶碗がいっぱい	パーキンソン病	山田正仁
3月 7日	69M	すこしずつ悪くなり おととつとつまづくことが多くて、のん気に考えていたものの さすがに気になり いろいろ調べたけれど むなしいだけ わからない、なんでこうなったの？	筋萎縮性側索硬化症	山田正仁

- 医学部医学科4年生（2008年10月～2009年3月の9回）

日 付	症例	タ イ ト ル	疾 患 名	担 当
10月17日	30M	踏ん張りが利かない	重症筋無力症	山田正仁
11月 7日	69F	水玉模様が見える	パーキンソン病	山田正仁
11月21日	53M	歩けなくて、食べれなくて、話せなくて	Machado-Joseph 病	山田正仁
11月28日	47F	手に膜がはっている。玉砂利を踏んでいる	慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー	岩佐和夫

(4) 臨床実習（BSL）

開始日	終了日	グループ数	学生総数
<2007年度冬学期> 2月6日	3月18日	3	18
<2008年度春学期> 4月7日	7月11日	6	38
<2008年度夏学期> 10月2日	12月 5日	7	41

B S L スケジュール（月曜スタート）

曜日	午 前	午 後
月	9：00 ガイダンス	
火	8：00 病棟教授回診	講義、18：00 医局 CC
水	金沢医療センター見学	
木	8：00 病棟グループ回診、外来ポリクリ（山田）	
金	8：00 病棟グループ回診、10：00 医王病院見学	学生 CC
月	8：00 病棟グループ回診、外来ポリクリ（岩佐）	
火	8：00 病棟教授回診	教授面接、18：00 医局 CC

B S L スケジュール（木曜スタート）

曜日	午 前	午 後
木	9：00 ガイダンス	
金	8：00 病棟グループ回診、10：00 医王病院見学	
月	8：00 病棟グループ回診、外来ポリクリ（岩佐）	
火	8：00 病棟教授回診	講義、18：00 医局 CC
水	金沢医療センター見学	
木	8：00 病棟グループ回診、外来ポリクリ（山田）	
金	8：00 病棟グループ回診、学生 CC	学生 CC、教授面接

教育活動は、主に医学部4年生、5年生に対して行っています。

4年生には、系統講義で神経内科の基本的なことを講義し、診断学実習で神経所見の取り方を覚えて頂き、臨床講義で診断・治療までの考え方の訓練を行います。特に、神経内科の臨床講義は難しいことで有名で、臨床講義の前日は担当の学生が医局で発表内容の確認を行っています。

5年生は主に臨床実習を行います。実習の内容はほとんど昨年度を踏襲していますが、今年度の大きな変更点として、学生の症例検討会を金曜日の夕方とし、その時にピザなどの軽食を出すようにしました。最初はどの程度受け入れられるのか心配しましたが、概ね好評であったようで、少しでも神経内科へのハードルが低くなっていればと願います。また、今年度も金沢医療センターや医王病院への学外実習をお願いしましたが、大学とは異なる神経内科診療は学生には非常に新鮮に映る様で、学生には極めて好評でした。学外の実習で主にお世話になっております新田先生、駒井先生、石田先生には、この場をお借りして深謝申し上げるとともに、今後も引き続きよろしくお願い申し上げます。

(5) 大学院医学系研究科医科学専攻(修士課程)講義

山田正仁：病理病態学：神経系。(2008年7月4日)

石田千穂：病理病態学：神経系。(2008年7月11日)

(6) 第4回金沢神経内科アカデミー

金沢大学大学院脳老化・神経病態学では、神経内科の魅力を医学部学生ならびに研修医に知ってもらうために、平成17年より神経内科臨床および基礎研究に実際にふれてもらう機会を作りました。今年は、連休にもかかわらず昨年と同様多数の参加者を迎え有意義な実習が行われました。

— プ ロ グ ラ ム —

7月19日(土)

- 9:30 参加者医局集合
オリエンテーション
- 10:00 病棟実習 主治医グループに参加し、患者診察や処置の見学
カンファレンスに参加
- 11:00 神経内科診察法、検査または外来実習(コース選択)
- 12:30 ~ lunch time ~
- 13:30 中枢神経 MRI 画像の読み方 講師 古川 裕 先生
- 14:30 認知機能検査概要・見学
- 16:00 講演 講師 山田 正仁 教授
- 17:30 終了
- 18:30 親睦会

7月20日(日)

- 9:00 医局集合
各研究実習の概要説明・実習(コース選択)
- 12:00 ~ lunch time ~
- 13:00 研究実習続き
- 15:00 終了

第1日目 臨床実習

- A) 神経筋生検 担当：岩佐、浜口歩、角田
- B) 頸動脈エコー 担当：浜口、能登
- C) 神経内科診察手技 担当：柳瀬、森永

第2日目 研究実習

A) 神経病理

担当：坂井、池田芳、高橋良

B) 遺伝子解析

担当：浜口毅、浜口歩、池田篤

C) 神経免疫

担当：岩佐、能登

<参加者>

蔵本 裕史

東 尚子

尾崎 太郎

藤田 欣也

赤尾 健一

深川 浩史

石黒 聡

村瀬 篤史

須田 烈史

岩橋 吉史

